

総合防災訓練を実施

大規模災害を想定

「災害に強い安全で安心なまち綾部」を実現するため11月2日、総合防災訓練を味方町の紫水ヶ丘公園と西町三丁目の武道館などで実施。市民と各防災関係機関が一体となって、非常時の連携を確認しました。

災害派遣医療チームが参加

総合防災訓練は、台風による風水害や地震、原子力発電所の事故を想定し、33機関、約600人が参加。紫水ヶ丘公園での訓練には綾部建設業

協会やNPO法人災害救助犬ネットワーク、災害派遣医療チーム「DMAT」が新たに加わり、法面崩壊防止訓練や土砂崩れ救出訓練、医療救護訓練などを実施しました。上林中学校の生徒らは防災教育

の一環として原子力発電所の事故を想定し訓練。バスで紫水ヶ丘公園に避難し、スクリーニング訓練にも参加しました。地元消防団の水防訓練や、関西電力による応急送電訓練なども実施。各地域では自治会や自主防災組織を中心に避難訓練などが行われました。武道館では、ユニバーサルデザイン避難所設置訓練を初めて実施。高齢者や乳幼児、妊産婦など福祉的な支援が必要な人にも使いやすい避難所にするため、授乳室や簡易ベッド・トイレを設置しました。



災害対策本部



綾部建設業協会による大型土のう設置



避難する上林中学校生徒



避難者に付着した放射性物質の有無を検査



倒壊した建物で災害救助犬が捜索活動

閉じ込められた運転手の救出訓練



紫水ヶ丘自治会と上林中学校の生徒による初期消火訓練



武道館にはプライバシーに配慮した避難所を設置



DMATや赤十字が連携して負傷者を救護

12月14日 第35回綾部市民合唱祭

響けハーモニー 広げよう豊かな心

過去最多の20団体が出演



昨年の合唱団あやべ

今年で35回を迎える綾部市民合唱祭（綾部市合唱連盟、市、市教委主催）が12月14日、里町の中丹文化会館で開催されます。今回は、「豊里幼稚園」が初参加するほか、「綾部市立幼稚園PTA連絡協議会」と「綾部高等学校合唱部」も加わり、過去最多の20団体約500人が出演。歌が好きな市民で結成する「合唱団あやべ」も合唱祭を盛り上げます。■出演順左表

送迎バス

綾部駅南口発(11:40、12:00)→西町バス停→中丹文化会館
中丹文化会館発(16:20)→西町バス停→綾部駅南口

出演順

- 12:30～ オープニング
- 12:40～ アイ・アイ合唱団
- 12:50～ 綾部市立幼稚園
- 13:00～ 豊里幼稚園
- 13:10～ 聖マリア幼児音楽院
- 13:20～ ひよこ合唱団
- 13:30～ コーラスわすれな草
- 13:40～ 市老連コーラス部「やまびこ」
- 13:50～ 綾部高等学校合唱部
- 14:00～ 綾部市立幼稚園PTA連絡協議会
- 14:10～ 八田ブロック・ホットハート
- 14:20～ ルーチェ・フェリーチェ
- 14:30～ 綾部混声合唱団
- 14:40～ うたごえサークル「ひろば」
- 14:50～ コーラスすみれ
- 15:00～ 綾部中学校合唱部
- 15:10～ せいざん合唱サークル
- 15:20～ コール・アマデウス
- 15:30～ サンシャイン・ママ
- 15:40～ メリーゴーランド
- 15:50～ 合唱団あやべ

善聞 語録



57

盆地人

地の人々は「盆地人」の特質を発揮し、コッコツと粘り強くモノづくりしに動しんだ。農業や蚕糸、そして金属加工等、手懸けるモノは時代を映して変遷するが、「モノをつくる」行為を通して何代にもわたる人々の真摯な営みが本市の礎を築いてきた。

綾部の風景でどこが好きかと尋ねられたら、まず紫水ヶ丘からの眺望を挙げる。なだらかな山の稜線に囲まれた盆地の中で市民の生業が息づく街の佇まいには、母の懐に抱かれたような穏やかな温もりを感じる。また盆地の真ん中を流れる由良川は、山紫水明の地を四季折々に彩りながら、その恵みを大海に運ぶ。「森は海の恋人」と言われるが、それを結ぶ川の役割は大きい。中世には京の都の「雅」に對比し、この一帯の田舎ぶりを「俚」と称したが、農耕民族として和を尊ぶ精神性は、世界平和を希求する現在の本市に繋がる。この

一本の高速道路で直結する。車社会は川の流れを凌ぐ速さでヒトやモノの動きを活性化させる。もちろん利便性の向上や将来の発展に寄与するインフラ整備が進む期待は膨らむ。しかしながら一方で、本市が通過点になりストロー現象で都市部に人口が吸収される懸念も払拭しきれない。いずれにしても盆地での暮らしに少なからず影響が出ることもあろうが、そうであっても、逆説的に聞こえるかもしれないが、敢えて盆地人らしく振舞うことが本市の軸足を見失わないことになるのではないかと考えている。

山崎善也（綾部市長）